

# NU CST

理工学部のロゴマークが 新しくなりました



ロゴマークを立体化したモニュメント タワー・スコラ前の「CST SPHERE」



第38号



**Since 1938** 

MAC
DEPARTMENT OF
MATERIALS
AND
APPLIED
CHEMISTRY





船橋校舎の「CST SPHERE」とライトアップされた様子

## 工化会会長あいさつ

工化会会長 太田延幸

(昭和54年卒)



新型コロナウイルス禍の中、工化会会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。コロナワクチンも接種され始め、少しずつですが対応が進み落ち着いて来るように見えましたが、変異種のオミクロン株の感染拡大を見せるようになり、毒性が少ないとは言え油断出来ない状況になっています。毎日、コロナの話題を聞かない日はない状況になっていますので、会員の皆様においては、十分にご注意下さい。

工化会は、2年連続でコロナの影響を受け、総会を中止せざるを得なく、ハイブリッドの役員会での決議で対応を進めて参りました。総会は、旧友や先生方などと交流を深める良い機会なのですが、連続して開催出来ず大変残念に思われている会員の方も多いと思います。令和4年度には、是非とも総会を開催したいとは考えており、開催する方向で準備は進めますが、感染状況がどのように変化するか不確定要素が多く、会員皆様の健康を最優先に判断して行きたいと考えております。

さて、令和3年度は、役員会を対面とオンライン電子会議室のハイブリッドで3回開催しました。第1回目は4月17日に開催され、令和2年度の事業報告および決算報告がなされ、承認されました。引き続き、令和3年度の事業計画と予算案などについて審議されました。ミャンマーの政情不安および新型コロナウイルスによる渡航規制などのため、主だった活動がしにくい状況であるミャンマー国際交流、入学生に対してフォローするような新規事業などについては継続審議となり、その他の事業計画及び予算案については承認を頂き令和3年度が始まりました。

第2回目の役員会は、6月19日にハイブリッドで開催され、第1回役員会で継続審議となった、ミャンマー国際交流と新規事業などが主に審議されました。ミャンマー国際交流は、学科主体行事として令和3年度は実施しないが継続することが確認されたので、工化会としては後援する立場であり、

項目として残すことで承認されました。ミャンマーの状況が 改善し、以前の様に交流が進むことが望まれます。また、新 規事業として、新入生に記念品を贈呈するなどの提案があり ました。これは、当学科の新入生は入学と共に当会の学生会 員となるわけですが、その学生さん達の認識が薄いのではな いかとのご指摘がありました。そこで、一案として実験時に 用いる保護メガネに工化会の名前入れて入学時に贈呈し、学 生さんたちと共に工化会があることを認識して頂くことが 提案され、具体的に検討されることになりました。その他、 学生からの意見聴取ややり取りする場としてホームページ の作成などの意見が出され継続審議となりました。

第3回役員会は、新型コロナウイルスが落ち着きだした、 11月27日にハイブリッドで開催されました。前回、具体的 検討となりました、新入生への贈呈品は、工化会のロゴ入り 保護メガネとして提案され、令和4年度の新入生と今年度に 限りですが 2 年生に対しても贈呈する追加予算が承認され ました。この保護メガネは、学生実験を履修する際に必要で あり、工化会を知るきっかけになって頂ければ幸いです。ま た、在校生から工化会への要望の一つとしては、やはり就職 活動情報についてではないかとのことで、今回で2回目にな る「OBによる在学生に向けた就活セミナー」の開催および 業界・企業徹底研究セミナー「『夢』実現プロジェクト」な どがオンライン形式で開催されています。「OB による在学 生に向けた就活セミナー」では、年代の異なる企業で活躍さ れている OB 4 人の方に、就職活動の体験談や面接官視線の 裏話的なお話をして頂き、また、学生から講演者に直接質問 したりする時間も設定され、就活生にとっては貴重な時間に なったものと思います。

工化会の会員および学生会員への情報発信などを目的とした、ホームページ(HP)の開設も新しい事業として計画されています。理工学部校友会のHPをご存知の方々もいらっしゃるとは思いますが、当会のHPが今まで無かったことが不思議な位です。令和4年度の予算化に向けて、動き出しており、開設できましたら、改めてご案内させて頂きます。

最後になりますが、今年こそ総会を開催して皆様と校友を 深めたいとは考えておりますが、新型コロナウイルスの新た な変異株がどのように推移するか分かりません。会員皆様の 更なるご協力を頂きながら、種々の難局を乗り越えて行きた いと思いますので、宜しくお願い致します。

# 令和3年度 就職状況



応化進路指導委員会 委員長 仁科 淳良

令和4年3月卒業または修了の学生はコロナ禍2年目の就職活動を行いました。印象としては内定獲得の観点から、昨年同様コロナ禍前と比較して大きな落ち込みは

なかったように感じました。2月時点の当学科の進路決定率は学部学生94%、大学院生94%(前年同時期はそれぞれ91%、93%)となりほぼ順調に推移しています。

例年、進路指導の年間スケジュールで最も力を入れている 行事が「夢実現プロジェクト」(夢プロ)です。夢プロは例 年12月にCSTホールで本学科学生の採用を志向する企業40 社以上に対し学生(学部3年生、大学院1年生が対象)100 人以上が参加するマッチングイベントです。例年、夢プロ参 加企業に実際に就職した学生数が約20名ですので、全学生 の1割程度が夢プロで就職の機会を得ています。本年度は昨 年同様、企業と学生の対面を行わず、WEB 上で学生と企業 が触れ合う機会を持つこととし、12月14日(火)~24日(金) の 13:00~18:30 に ZOOM を使用してオンライン開催しまし た。我々進路指導担当は各部屋を巡回して進行に支障が出な いように配慮しました。結果、参加企業51社(昨年44社)、 のべ参加学生数 708 名 (参加学生 117 名が平均 6 社と面談) 「昨年はのべ参加学生数 1049 名 (参加学生 145 名が平均 7 社と面談) ]となり、参加した学生の数が昨年より少なかっ たという結果となりました。開催後に集計した企業に対する アンケート結果から、ほとんどの企業が WEB 開催に好意的 で、来年も WEB 開催であれば参加したいという企業も見受 けられました。また、受講した企業のことが良く理解できた 学生が 98.7%、今回の夢プロが有益であったと思った学生 が 98.3%となり、結果的には成功裏に終了することができ ました。

参加学生数の減少に関しては、教員の夢プロに対する意識に温度差があり、研究室によって、参加率に差が出たことがわかりました。来年度は学生のみでなく、教員にも事前の啓発を行うこととします。

一方、2 月時点で当大学院に進学する学生は 39 名 (昨年度 26 名) となっており昨年度と比較して大幅な増加となり

ました。難関理系大学の大学院進学率は軒並み 70~90%で すので、就職率を確保するとともに、大学院への進学率を今 以上に高めることが進路指導担当の重要な使命となります。 また、他学の大学院に進学する学生が14名おり、当学科の 大学院の魅力を発信していく必要があります。次年度は就職 サポートとともに例年以上に大学院進学を啓発する企画を 実施する所存です。

工化時報

来年度(令和5年採用)の就職活動は昨年と同じように3 月に解禁され、内定は6月以降に出されることが暗黙のルー ルですが、年を追うごとに前年度よりも早くインターンシッ プを開催するとともに内定を出している企業が増えている という情報があり、学生は状況に応じて柔軟に対応する必要 があります。進路指導担当として、就職率100%に向けて最 善を尽くす所存ですので、工化会の皆様におかれましても、 ご所属の企業に 1 人でも多くの学生を受け入れていただけ る等のご協力をお願いできますと幸いです。



# SHOWA

#### PVC・合成樹脂 コンパウンドメーカー

#### 昭和化成工業株式会社

〒348-0038 埼玉県羽生市小松台1-603-29 TEL 048-561-5221

高い技術力とノウハウが業界トップシェアを支えています。

昭和53年度卒 代表取締役社長 池本 俊一

多目的燃料添加剤の製造・販売

# 有限会社深澤化学研究所

〒194-0041 東京都町田市玉川学園8丁目 14-24 昭和52年卒取締役副社長 深澤豊史

# 令和3年度 学会賞・学生の活動

本年度の物質応用化学科の学生・OB の学会賞受賞などの 活躍をご紹介いたします。(集計期間:令和3年2月~令和 4年1月)

#### 【教員の部】

- ・小嶋芳行(無材) (公社)日本セラミックス協会、支部振 興功績賞
- ・遠山岳史(無分) 日本無機リン化学会、学術賞

#### 【学生の部】

- ・早川祐太郎(超分子) 第 72 回コロイドおよび界面化学討論 会、ポスター賞
- ・伴 朱理(無分) 6<sup>th</sup> International Conference on Competitive Materials and Technology Processes (IC-CMTP6), Best short oral award
- ・押尾海人(無分) 理工学部学術講演会、優秀発表賞(材 料・物性部会)
- 澤口大輔(有材) 理工学部学術講演会、優秀発表賞(化学部会)
- ・桐生莉沙(生資) 日本大学部科校長賞(理工学部長賞) 受賞、第 35 回世界トランポリン競技 選手大会日本代表最終選考会 など、 現在 オリンピック強化指定選手

#### 【OB の部】

#### ~.~~.~~.~~.~

## 2年生 河村慶弥 君が感謝状を贈呈される

船橋アリーナのトレーニング室で意識を失った男性に対して、近くに居合わせた本学科 2 年生の河村慶弥君らが

AED 等の心肺蘇生を行い、救急隊に引き継ばに引き継ばした。迅速な処置により男性は意識が回復し、無事退院しました。これを受けて、千葉県船橋市大場で署は河村君らに対して、が関係を開発しました。



# 工化会賞受賞者の声

#### 令和 2 年度 80周年記念賞若手研究者支援受賞者



神 翔太 (令和3年博士後期課程修了) 超分子化学研究室卒

私は、学部3年次に超分子化学研究室に配属されてから博士前期課程および博士後期課程を同研究室で過ごし、2021年3月に博士号を取得いたしました。その後2021年4月からは、ジオマテック株式会社のR&Dセンターで研究開発職として

勤務しております。

現在は、5G/6G のような高周波領域に対応したプリント 配線板の開発を目標とした研究グループに配属され、大学 時代に触れたことのない装置に悪戦苦闘しながらも、日々 実験に励んでおります。実験内容は研究室時代と異なりま すが、「実験中の注意深い観察」「常に工夫の余地を探す姿 勢」を貫き、与えられたテーマを完遂間近まで進めてきま した。また、実験のみにとどまらず、「データ整理の自動化」 「実験計画法(統計学を駆使し少数の実験回数で最適水準 を導く手法)を社内に導入」など多数の改善提案もおこな い、会社全体の業務効率化にも取り組んできました。それ 故、2021 年度上期の優秀な改善提案として社長から表彰を 受けました。今の会社でこのような成果を出せているのも、 自分の研究テーマの外にも興味関心を向けることの大切さ を教えてくださった須川晃資先生のおかげだと断言できま す。来年度からは新規テーマのグループリーダーを任され ることが決まっていますので、「思考力」「コミュニケーシ ョンカ」「あきらめの悪さ」など研究室時代に須川先生から 学ばせていただいた多くの財産を駆使し、テーマ完遂に向 け精力的に取り組んでいく所存です。

#### 令和 2 年度 80周年記念賞奨学生支援受賞者

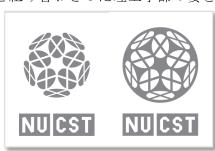
物質生命化学研究室所属 佐藤 日菜子 (令和3年物質応用化学科卒)

現在、私は眼疾患の一つである白内障について、その進展機序の解明のため、加齢に伴う水晶体の分子メカニズムを調査しています。分子メカニズムの中でも特に、様々な生命現象に関与している糖鎖の構造や発現量の変化と疾患発症の関わりを明らかにすることを目的としています。大学院に進学してから、日々研究に打ち込むことができているのも、工化会の皆様方のご支援によるものと深く感謝しております。ご期待に応えるべく研究活動に励むとともに、洞察力を鍛え、目まぐるしく変化する時代にも対応できる人材となれるよう精進してまいります。今後とも大学院に進学する学生へ変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。末筆ながら、ご支援してくださった全ての方に改めて御礼申し上げます。

# **ンっとつとつとつとつとつとつ**理工学部の新しいロゴが決定!

理工学部の新しいロゴマークは、アーティスト野老朝雄さんのデザインによるものです。このロゴマークは平面的で幾何学的な楕円の集まりでありながら立体的であり、中心に有機的な桜の形が浮かび上がります。これは「もの」から「こと」を浮かび上がらせる理工学部を現すとともに、多様な学科がしっかりと組み合わさった理工学部の姿を

も表しています。駿河台 校舎タワー・スコラ前 と、船橋校舎テクノプレ ース 15 前には、このロ ゴマークを立体化した モニュメント「CST SPHERE」が設置されて います。



~アイディアを財産へ~



かもめ特許事務所

Kamome Patent Attorneys Office

231-0005 横浜市中区本町 1-7 東ビル 4 階 平成 10 年卒 弁理士 荒井 滋人 info@kamomepat.com TEL: 045-319-4466

# 日本大学理工学部科学技術史料センター 常設展示室への化学資料追加について

工化時報

日本大学理工学部科学技術史料センター (CST MUSEUM) は 2004 (平成 16) 年に船橋校舎 5 号館内に設立されました。全国に約 780 の大学がありますが、その中で博物館を有する大学は約1/3でその中 で工学系の博物館を有するのは11大学のみと非常に珍しい施設です。 2005年より毎年特別展を開催していますが、物質応用化学科では2018 年7月26日~2019年7月1日にかけて第15回特別展日大理工のち からXI 物質応用化学科「化学の眼で見たら日常は異世界だった。」を 開催しました。(2018年度の工化会通常総会の前に特別展の見学会を 行いました。)

これまでは常設展示に物質応用化学科の展示物はありませんでし たが、CST MUSEUM が 2020 年に船橋校舎 5 号館から船橋日大前駅に 近く利便性の高いテクノプレース 15 に移転したのをきっかけに、特 別展に使用した実験台(分析化学研究室実際に使用されていたもの) 上にガラス器具(2003年頃まで学部2年生の分析化学実験に使用)や 化学天秤などが展示されています。個人で申し込みをして見学するこ とができますし、学部祭やキャンパスウォッチングの際に見学するこ ともできます。

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため入館制限が行われて いるので、見学希望の方は CST MUSEUM のホームページより予約な どの詳細をご覧のうえご来場いただければと思います。



CST MUSEUM ホームページ

https://www.museum.cst.nihon-u.ac.jp/

●入館者数の制限

入館の制限(1日3組までとし1組10名まで)

●事前連絡による予約制

見学時間は以下の通り(1日3組で、①~③に分散する)

①10:30~11:30 (その後除菌作業と換気を実施) 月曜日~土曜日 ②13:30~14:30 (その後除菌作業と換気を実施) 月曜日~金曜日 ③15:30~16:30 (その後除菌作業と換気を実施) 月曜日~金曜日

●休館日

日曜日・祝祭日・大学の定める休日

●現在開催中の特別展 (2022 年 7 月 2 日まで)

第17回特別展

日本大学理工学部 100 周年記念 日大理工のちから XIII 木村秀政と平山善吉

# 2021年の授業はハイブリッド

今年度の授業は対面を基本にスタートすることができました。理工学部では、学生をレッドグループとグリーングループの2つに分けて隔週で登校させることにより、密になることを防ぐこととなりました。授業担当教員は大変でした。何故なら、教室には受講者の約半数はやってきますが、オンライン授業を受ける半数の学生のために同時にネット配信しなければならなくなったのです。これをハイブリッド授業と呼ぶようになりました。8号館の教室には、ネット配信用にカメラとマイクが設置されました。教員は、教室内と同時にオンライン受講者にも声が届いていることを確認しなければなりません。また、板書したものがオンライン受講者のPCでちゃんと読めるように、いままでより大きく判別しやすい綺麗な文字や図を書かねばならなくなったのです。



ハイブリッド授業の様子: 教室中央の上に設置されたカメラで 教員と黒板が撮影され学生に送信される

学生実験では実験室内を学生が移動するので講義科目以上の対策が必要となります。パーティションやフェイスガードなどを適切に用いて、できる限りリスクを下げた状態で実施されました。無事故でクラスターの発生もなく運営された、助手の先生方をはじめ学部の実験担当者のみなさま、ま

た、一般の化学 実験を担当され た先生方、お疲 れ様でございま した。



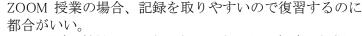
学生実験の様子

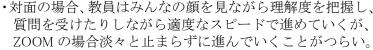
文責 西村克史(短大総合・応用化学分野 教員)

# 学生の『声』 授業や学生生活について

#### 【M1 張替 梨花さん】

- ・オンライン授業は、気持ちの切り 替えが難しい。対面授業では、教 室に入ると気持ちに授業スイッチ が入る。オンラインではそれがな いので、授業に集中することが難 しい。
- ・ハイブリッド授業の場合、ZOOM 参加者は教室参加者より質問する ことがかなり少ないと感じる。





#### 【3 年生 CK さん】

- ・講義科目について:オンデンマンド授業は、私にとっては 対面よりもわかりやすく効率的な受講ができました。巻き 戻しや見直しができる点が良かったです。
- ・学生実験について:半数に分けて登校のためメンバーの全 員と直接会うことはできませんでしたが、人数が少なくな る分質問もしやすく、よく内容理解ができたと思います。
- ・学生生活について:私は学芸員課程を履修しています。毎年、学芸員課程の有志のMA(ミュージアム・アソシエイツ)は、船橋キャンパスで望遠鏡を用いて星を見る観望会を開催してきましたが、今年はコロナ禍のため実施できませんでした。そこで、2021年8月22日に、オンラインイベントとして「おうちで天体観測 みんなで星を描こう」を開催しました。WEB会議システムを用いて参加者と私たちをつなぎ、天体観測をする時のポイントをお伝えし、望遠鏡をコンピューターにつないで月の様子を観察して頂きました。当日は曇り空で不安でしたが、開催中に一時的に船橋校舎は晴れ間が出て、美しい月を観察することができました。コロナ禍であり対面での対応ができなくて



も、WEB 会議システムなどを使ったオンラインの私たちの問いかけに、参加者は 笑顔で応え、質問をして下さり、とても 楽しんでいる様子が伝わってきました。

4 月からは卒業研究も始まるので、微生物を用いた実験をすることを楽しみにしています。今後も自分たちにできることを探していろいろな活動に挑戦していきたいと思います。

# 令和3年度 広報活動

今年度は昨年度と異なり、オンライン形式だけでなく、対面形式での広報活動を実施することができました。特に、7月11日の駿河台入試フォーラムでは、オンラインと対面を組合せたハイブリッド形式、10月29~31日の船橋キャンパスウォッチングでは対面形式にて広報活動を実施し、多くの高校生や親御様にご参加いただきました。

駿河台入試フォーラムでの今年の学科展示トピックスは「持続可能な開発目標:SDGs」であり、各教員の研究と組合せて紹介しました。また、超分子化学研究室の大月先生が「分子を組み立てる「超」分子化学一人工的に光合成を実現できるかー」というタイトルで模擬講義を実施し、大学での学びをアピールしました。このような化学研究の魅力、学科での講義や実験の様子、就職状況などについて、展示品や面談を通してお伝えすることができました。参加者の皆様からは「直接お話を聞けて、雰囲気も伝わりとても良かった」との声も届きました。また、船橋キャンパスウォッチングでも、学科ブースに説明を受けるための参加者列ができるほど、盛況でした。





図1 駿河台入試フォーラムでの面談(左)とオンライン面談(右)

今期は動画での広報活動にも積極的に取り組みました。 学部主導で作成された動画である「女子高生のための CSTサイエンスセミナー」や学科動画「Advice from Students」を作成し、多くの在学生・卒業生が協力してくれました。



図 2 船橋キャンパスウォッチング





図 3 学部 PR 動画(左)と学科 PR 動画(右)の撮影風景

# 短期大学部(船橋校舎)生命・物質化学科の 廃止について

短期大学部ものづくり・サイエンス総合学科 萩原俊紀

2021年3月に最後の学生が卒業し、2019年度から学生募集を停止していた生命・物質化学科は廃止となりました。日本大学に短期大学部が創設された1950年に応用化学科として出発した学科は、2012年に生命・物質化学科と学科名を変更したものの、一貫して化学教育に力を注いでまいりましたが、これをもって70年の歴史に幕を閉じることになりました。

応用化学科は、かつて1学年100人の学生を擁していたこともありました。近年では40人と往時から比べれば減少してはいたものの、それでも毎年30人程度の卒業生が物質応用化学科に編入しており、その他にも毎年のように日本大学薬学部や国公立大学への編入生を輩出していました。

これによって短期大学部船橋校舎は、建築・生活デザイン学科(旧・建設学科)とものづくり・サイエンス総合学科(旧・基礎工学科)の2学科体制となります。生命・物質化学科の廃止にともなって、ものづくり・サイエンス総合学科内の1分野として新たに応用化学分野が創設され、旧生命・物質化学科の教員が引き続き化学を志す学生の教育に当たります。これまで生命・物質化学科と物質応用化学科は、人事交流を含めて良好な関係を維持して来ました。今回、独立した学科から学科内の1分野にはなりましたが、引き続きものづくり・サイエンス総合学科応用化学分野との変わらぬお付き合いをお願いできればと思っています。

今後、短大で化学を学ぶ学生の数、そして物質応用化学科へ編入する学生の数は、これまでに比べて大きく減るものと思われますが、工化会にはこの応用化学分野を卒業した学生も会員として受け入れていただけることになり、たいへん感謝しております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 短期大学部 (船橋校舎) の学科構成

建築・生活デザイン学科(入学定員110名)

・デザイン系分野 ・エンジニアリング系分野

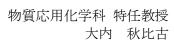
ものづくり・サイエンス総合学科(入学定員70名)

- ·機械工学分野 · 電気電子工学分野 · 情報科学分野
- · **応用化学分野** (新設) · 物理学分野 · 数学分野 · 総合科学分野

生命・物質化学科(廃止)

・マテリアル科学分野 ・バイオ・環境科学分野

# 退職のごあいさつ





本年度末に専任と特任教授として7年間お世話になった本 学科を退職することになりました。これはあっという間で、 最後の2年間はコロナで思うようにならない歯がゆい期間で した。

本学への赴任に当たり3つの目標を立てました。一つ目は 自主的に仕事ができる学生を育てることです。これは偶然に も本学の自主創造と繋がるものでしたが、前職での内外の博 士研究員との研究において日本人は指示しないと仕事がで きないことが多くありました。自分で考えろ、と放置するだ けではだめで、指示を出すだけでもだめなので、その教育方 法についての試行錯誤の7年間でした。最も強く思ったのは 学生の意識で、若い先生方には積極的に内外の優れた大学の 学生や教員との交流を目指し、本学の学生の意識を高めても らいたいと思います。二番目は研究環境を整えることです。 赴任前に見た研究室はドラフトが一台しかなく、部屋の中は 有機溶媒の匂いが満ちているものでした。学生一人当たりの ドラフトの数は私が学生だった40年程前より少なく、匂いに ついては多少懐かしい気はしましたが、現在の基準からすれ ば許容できる状況ではありません。これは多少改善できたと 思いますが、他大学と比べて遜色ないように更に改善される ことを願っています。三番目は研究室の研究領域を広げるこ とです。SDGsに関連したテーマとして、太陽光をエネルギ 一源とする有機合成を目指しました。進めていた研究を発展 させるだけでなく、全く新しいテーマも始め漸く先が見える 所まで来たので今後どこかで続けたいと思っています。しか し、研究室に新しいテーマを残せなかったのは残念です。

私事についてはこの7年間は大変な時期でした。七か月の 闘病の後に母を看取り、その後間もなく一年三か月を超える 妹の闘病が始まり最近その最後も看取ることになりました。 二人とも最後の数か月は良くなったり悪くなったりの繰り 返しで緊張の続く毎日でした。

最後になりますが、本学科の更なる発展を願っています。 そして、優れた研究を通して自主的に仕事ができる多くの学 生が社会に出て活躍しているところを見たいものです。

第38号(15)

#### 日本大学不祥事における大学の対応について

昨今のテレビ報道において校友会役員による事件が報道されておりますが、本件における大学の対応について、ホームページに掲載された日本大学理工学部校友会からのメッセージを下記に転載いたします。また、理工学部からも青木学部長によるメッセージが発信されています。詳しくはホームページをご覧ください。

#### ●日本大学理工学部校友会 ホームページ

http://www.koyukai-cst-nu.jp/

●日本大学理工学部 青木義男 学部長メッセージ (12/25)

https://www.cst.nihon-u.ac.jp/news/detail/20211225\_1015.html

#### 

#### 日本大学校友会役員の解任及び除名の報告を受けて

日本大学理工学部校友会の皆様

皆様には、日頃より校友会の活動に対してご高配とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

令和3年12月22日の日本大学校友会のホームページにて、この度の校友会役員の背任・脱税事件に関して12月17日開催の持ち回りによる臨時校友会役員総会において、関係した田中英壽校友会会長、井ノ口忠男校友会副会長及び藪本雅巳校友会副会長の役員解任及び除名決議案が可決され、同日付で解任及び除名した旨の報告がありました。

一連の事件発生後、皆様から多くのご指導やご意見をいただき、理工学部校友会では役員による運営委員会や相談役を交えた意見交換会等を開き、日本大学及び日本大学校友会の対応を協議して参りました。

この度の日本大学校友会の報告を受け、理工学部校友会 としては日本大学及び日本大学校友会と協力し、理工学部 と校友の支援活動に邁進して参ります。

皆様にご心配とご迷惑をお掛けしておりますことに深く お詫び申し上げますとともに、今後も理工学部校友会への ご指導・ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

> 令和3年12月24日 日本大学理工学部校友会 会長 外山 勉

# 令和3年度工化会事業報告

令和3年度工化会通常総会は、令和2年度内に令和3年6 月 19 日(土)15 時からの開催を計画しましたが、令和3年4 月 17 日(土)16 時からの令和 3 年度第 1 回工化会役員会(駿 河台校舎 245 会議室+オンライン会議での開催)で通常総会 の開催について審議し、感染拡大が収束せず大学構内への入 構制限が継続していることと出席者の安全を考慮し中止を 決定いたしました。「役員会において総会の開催が困難と認 めた場合に限り、役員会をもって総会にかえることができ る。」という工化会会則の第10条に基づき、令和3年度第 1回役員会で、庶務・会員・会報各委員会の令和2年度事業 報告案、会計決算報告案および監査報告ならびに令和3年度 事業計画案および会計予算案、役員の一部改選案、工化会賞 表彰要項・基準の改正についての審議を行い、これらを承認 しました。また、工化記念基金委員会の事業報告・事業計画、 80 周年記念基金の決算報告・監査報告・予算報告を行いま した。事業計画の一部は継続審議となったため、第2回役員 会(令和3年6月19日(土)16時から)と第3回役員会(令 和3年11月27日(土)16時から)を駿河台校舎245会議室 +オンライン会議で開催し審議いたしました。

令和3年度の事業としては、役員会の開催、総会の開催(第 1 回役員会で中止決定)、付属高校生のためのオープンカレ ッジ 2021、駿河台入試フォーラム 2021、オープンキャンパ スオンラインスペシャルデー、令和3年度日本大学理工学部 一日体験化学教室、短大ものづくり&サイエンススクール 2021、2021 年度物質応用化学科夢実現プロジェクト、第 15 回合格者相談会、令和3年度物質応用化学専攻・同学科なら びに短大ものづくり・サイエンス総合学科応用化学分野の学 位記伝達式に対する後援、工化会賞の授与、工化会主催の講 演会の開催、工化時報の発行・発送が承認されました。なお、 物質応用化学科・工化会共催「東南アジア国際交流(ミャン マー)」の事業はコロナ禍等で実施を見送る場合でも、後援 事業から削除しないこととなりました。また、令和4年度新 規事業として、新入生への記念品として工化会からの贈呈で あることが分かるよう刻印し保護メガネを配布するが決定 されました。

工化会賞は卒業時に、在学時の学術・文化等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した学生を工化会として表彰するものですが、本年度も厳正な選考を行い、受賞者合計 42 名には、3 月 25 日(金)に大学院・学部・短大における学位記伝達式の際に賞状と記念品を贈り、その栄誉を讃えました。また、本学科の創設 80 周年記念事業として制定された若手研究者支援(大学院博士後期課程在学者が対象で当該年度の学位修得者)、奨学生支援(大学院博士前期課程進学予定の成績優秀者で特待生を除く)、奨励賞(大学院・学部・短大の修了・卒業生の中で高難易度の資格免状等

を取得、または好成績を収めた学生が対象)については、若 手研究者支援は2名、奨学生支援は1名、奨励賞については 学部13名(大学院・短大該当者なし)に対して支援・授与 が行われました。

最後に令和3年度の工化会予算についてですが、本会では 予算を経常会計予算と特別会計予算の2種類を編成しており、令和3年度経常会計予算は総額502.2万円で、その内訳 は学生支援事業費が12.1万円、各種講演会・行事支援事業 費として64.1万円、卒業生支援事業費は111.1万円、その 他12.0万円、次年度繰越金が302.8万円であり、特別会計 予算は総額910.6万円で、内訳は卒業生支援事業費に155.1 万円、会費・寄付金郵便振替対応業務として5.0万円、国際 交流支援に50.0万円、次年度繰越金として700.5万円計上 しています。なお、令和3年度の会員諸氏による会費の納入 状況は、本号の会費納入者氏名一覧をご覧ください。

最後に、令和3年度の工化会主催行事ならびに後援事業の 概要を以下に報告します。

#### ① 4月17日(月) 16:00~18:50

第1回役員会:役員 67 名出席(内委任状 24 名)。情勢を考慮し、第1回役員会で通常総会の開催中止を決定。

- ② 6月6日(日)
  - 付属高校生のためのオープンカレッジ 2021:付属高校生 46 名 が来場。※ウェブ開催
- ③ 6月19日(土) 16:00~17:15

第2回役員会:役員61名出席(内委任状22名)

④ 7月11日(日)

| 駿河台入試フォーラム 2021:対面では 127名、オンラインでは 8名の高校生が参加

- ⑤ 8月1日(日)、7日(土)
  - CST オープンキャンパス: 高校生 155 名(8月1日)、160 名(8月7日)がウェブ参加
- ⑥ 10月31日(日)

船橋キャンパスウォッチング:高校生70名が参加

⑦ 11月27日(土) 16:00~17:30

第3回役員会:役員55名出席(内委任状20名)

⑧ 12月8日(水) 15:00~17:00

講演会「OBによる現役学生のための就活セミナー」:学生 41 名が参加。※講義室での対面とウェブ併用での開催

⑨ 12月14日(火)~24日(金)(全6日間)

2021 年度夢実現プロジェクト: 企業 51 社、学生 710 名が参加。 ※ウェブ開催

⑩ 2月5日(土) 16:00~17:00

工化記念基金評価部会:委員19名出席(内委任状2名)

① 2月23日(水)、25日(金)、27日(日)

第 15 回合格者相談会: 23 日(水): 6 組(WEB)、25 日(金): 6 組(WEB)、27 日(日)6 組 12 名(対面)、7 組(WEB)が参加。

① 3月25日(金)

令和 3 年度物質応用化学専攻・同学科ならびに短大ものづくり・サイエンス総合学科応用化学分野学位記伝達式

以上 庶務委員会

# 会費, 寄付金納入者名簿 (令和4年1月31日現在)

昭和17年卒	横山 富雄	笠井 啓也	栗田 公夫	宮城 晃
磯岩 武一	神戸 徳蔵	須永 晋	鈴木 和夫	木村 勲
昭和19年卒	小林 麗	村川 信子	白石 益郎	佐藤 栄祐
脇 幹夫	田畑 調友	丸山 長資	昭和39年卒	嶋田 晋廣
日暮 忠弘	石塚 和三	昭和36年卒	赤池 昭彦	舘 敏夫
昭和20年卒	昭和32年卒	中村 紀史	斉藤 博之	彦田 一夫
杉浦 銀蔵	阿久津 芳彦	石井 照明	香山 武夫	真下 清
昭和21年卒	高木 孝	仮戸 斌	菊池 靖彦	高桑 豊
石川 幸一	田中 昭男	木村 繁夫	梅原 達朗	玉應 亨三
斉藤 光平	竹原 晃	佐藤 進	神谷 中	沢田 金吾
昭和22年卒	東海林正	鈴木 善治郎	渡辺 久和	重田 勲次
大川 襄治	宮川 了一	高柳 裕臣	児玉 義宏	昭和42年卒
昭和23年卒	斎木 稔	松嶋 精一	斎藤 伸之	豊田 文江
伊藤 譲	笹原 孝	柳弘来	斉藤 守圀	岡見 宏道
昭和25年卒	網代 良太郎	吉田 昌弘	竹石 肇	中井 忠男
池田 富三	工藤富司	渡辺 寿義	相楽哲夫	田中秀也
吉岡 典照	依田 恵市	佐藤 貞男	鈴木 庸一	富田 潤一
吉田 耕一	昭和33年卒	野村友次	田幡 安郎	赤坂洋輔
西田 正雄	小林脩一	桔梗 隆	田中茂雄	今田 雅躬
昭和26年卒	阿部 正明 才木 義夫	小串 照宗 越智 健二	山崎 恭弘 武田 幸久	鈴木 健之 シヰ 幼ま
│ 鈴木 信夫 │ 稲垣 正	イヘ 莪大 箕浦 滋	赵省 (唯二 斎藤 博	武田 辛久 横田 力男	永井 紘志 長谷川 元保
福坦 止   太田 精一	其油 滋 加賀 勘之助	京藤 (P) 炭田 幸宏	使田 カラ 中澤 甫	長台川 元休 渡部 高尚
太田 桐一   垣内 宏	加貝 劍之助 熊谷 祐一	灰田 辛宏 村田 敏弘	中田博	股部 高间 佐藤 馨
昭和27年卒	齋藤 二郎	宇賀治 正名	中田 博 中野 一次郎	山﨑 博
柏木 治彦	点版 一切 装渡 義男	小川 昌太郎	橋本 信之	栃木 勝己
外山 研次	広瀬 俊雄	木佐貫 秀彌	原襄輔	古阪一昭
石田 宏	柏崎 敏郎	斯波 弘行	堀 是治	鈴木 啓輔
高田 芳行	宮森 隆志	宮道 雅行	和田高伸	昭和43年卒
東昭	中島 和紀	昭和37年卒	青木 匡	海上 幸三
近藤 住吉	昭和34年卒	奥山 正之	小屋原 英雄	進藤 宣詔
昭和28年卒	大久保 勝弘	駒井 俊雄	鈴木 良治	浅井 保雄
佐藤 正巳	桜井 鉦二	清水 大三	田中 誠悦	梅北 司
金子 良夫	藤森 信正	芝田 研爾	冨士 光男	佐藤 精二
幡野 隆	松浦 豊紀	塚田 政弘	寺山 洋子	松村 清利
村上 全司	山谷 保二	富田 允雄	秋本 幹夫	北村 正孝
│ 鈴木 一成	横川 徹也	長谷川 修一	石川 和正	村岡研一
石田壽文	菊田 庄一	磯崎 昭徳	北本 義征	昭和44年卒
堀 武	栗原 孝夫	神保進	瀬尾 宏	田中敦
吉川 和夫   田村 佐重	伊東 明男 玉置 憲三	長田 守一 長友 良久	奈良木 亨丞 野口 文雄	八幡 順一 安藤 純一
	玉區 忠二 昆野 澄夫	原周二	高松 武生	女
昭和29年卒	昭和35年卒	津崎 信隆	亀村 矗	石山 利男
井上 秀雄	石原 義弘	伊藤 成利	昭和40年卒	大橋 正宣
月 永實	定方 聰博	斎藤 一郎	上田 輝世	北島 徹夫
寺島 昌訓	野島 秀次郎	庄司 翠	幡野 匡彦	桜井 浩平
八田肇	貝瀬 正猛	宮沢 武次	三谷 治郎	末延 温之
高橋 久雄	青木 弘	昭和38年卒	加藤 昌弘	花井 秀之
浅川 和昭	安藤 成昭	杉田 松生	高橋 志郎	横山 二郎
横田 一郎	門倉 利夫	深井 英世	丹野 隆善	小栗 勝治
米山 廣保	黒木 妙子	稲垣 甫	稲葉 清彦	萩原 喜代治
長山 勝政	金澤 成光	大野 維夫	沖本 武且	井上 隆
昭和30年卒	小林隆夫	永田 正巳	佐藤 瑞雄	新藤 豊彦
綾野 怜	篠 大太郎	長谷川 實	土田 紘一	昭和45年卒
金井孝道	瀧澤 文男	原田 文雄	武井 秀彦	滝戸 俊夫
橋本 博和	難波 純一	渡部 長幸	高間伸一	永島 一男
植竹 和也	原幹夫	原章	清水 博太郎	宮内 和司
近藤 練太郎	町田 収 渡辺 哲治	大橋 隆 藤樹 安五	飯原 打越	宮川 晃一 望月 昭宏
古川 新  昭和31年卒	度20 名后 倉形 邦英	藤掛 省吾 大村 俊晴	有田 喜一 上野 公雄	至月 昭宏 佐藤 宗衛
青木 直三郎	月かり ガス 関ロ 勝	南山 茂男	牛山 恵次	篠﨑 勝彦
日 一 日 一 日 二 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	島田洋子	久喜 徹	飯野 宏治	操啊 勝厚 土田 久
小松原 彬	青木 滋夫	カー 版 西山 孝彦	西脇 鉄雄	服部 正隆
田中宏之	河合 哲次	荒谷 作松	昭和41年卒	平塚良一
高木 弦	吉村 仁雄	長嶋 潜	石毛 哲男	森川 美次
高橋 一正	渡邉 高章	藤野 裕	藤池 誠治	森崎 正美
柿澤 正彦	須藤 隆司	井野 二陸	塚田 悦造	小熊 三郎
矢野 弘子	安達 昭郎	木村 次雄	中澤 豊	瀬戸 博

	三3月25日)			第38号(19
寺田 高徳	関 孝光	今野 直哉	平成元年卒	平成15年卒
小林満	中野功	後藤 真一	磯崎 誠也	堀川達哉
中澤 之博	長井 一良	坂牧 勝也	丸山 浩司	星徹
永田 勝彦	大川 由明 上田 賢二	熊谷 一弘 三橋 昭男	黒田 美和子 和田 香織	平成16年卒 石井 完
加村 尚喜 昭和46年卒	上田 貞一 末森 博文	二偏 昭男 有川 俊一	和田 省極 木方 真理子	石井 元 平成17年卒
川島 英郎	上條 治夫	木屋 幸蔵	佐野 伸一	三浦 孝夫
鈴木 重衛	昭和51年卒	大沼明	平成2年卒	赤澤 寛行
岩間 幸雄	三井 正二	昭和57年卒	石川 恵子	平成19年卒
大木 雅夫	内野 好夫	井上 みどり	小川 貴子	伊藤 拓哉
菊田 茂	塚本 正雄	中村 宏昭	上條 潤	平成20年卒
丹野 幸久	前田 勉	中村 明裕	荒川 一郎	小出 優一郎
飯田 隆	馬場 務	久松 美樹	城内 秀彦	平成21年卒
小谷 将彦	重盛 正男	三根 郁夫	平成3年卒	佐藤 克哉
齋藤 政久	金澤登志夫	伊藤 和宏 梅田 栄一	大山直人	吉田 隼人
牧原 信太郎 昭和47年卒	昭和52年卒	一	川野辺 晃生 鈴木 光一	平成22年卒 掛川 瞳
関 正俊	栗村 嘉明 山田 勝彦	山浦 信介	野水 元一 竹内 秀光	平成23年卒
何木 正芳	生方正之	江田 久雄	村原伸	鈴木 利彦
藤木 孝人	太田 政子	小暮 勝彦	高田 昌子	篠田 賢
飯倉 登美雄	大窪 峰裕	末澤二朗	平成4年卒	太田直裕
駒屋 伸雄	荻原 謙二	昭和58年卒	齋藤 利文	春日 龍史
齊藤 菊夫	志田 邦昭	小林 洋明	林 由浩	平成24年卒
丹呉 秀博	古越 宣正	高山 利治	桐山 崇一	中山 麗
山口 勇	前川 幸生	谷田貝 仁恵	佐藤 裕司	渡貫 泰寛
荒井 昭一	山田 忠雄	谷田貝 隆	松田 和夫	平成25年卒
鶴達郎	関口 晴久	稲野邉 教夫	萩原 洋子	大竹 崇史
森伸一	新国 貞幸	飯田隆久	関根 智一	近藤 駿平
小嶋 信男 昭和48年卒	瀬戸 秀明 深澤 豊史	長 茂輝 久保田 博明	平成5年卒 岡村 万友美	田村 高大 早川 麻美子
加来 文隆	木澤 豆炙 古橋 雄二	为保田 博明 岩﨑 好高	高利 カ及夫 米田 哲也	松山史典
櫻川 昭雄	堀内 晴夫	栗原 清文	岩渕 弘晃	曽村 岳郁
重藤 峻一	昭和53年卒	田村 精一	小泉 公志郎	平成26年卒
渋谷 修	伊藤 俊広	原川 優子	平成6年卒	野中 裕名
瀧口 誠典	池本 俊一	山田 美穂子	石黒 香織	長谷川 翔大
渡辺 明典	原田 哲也	立岩 洋	遠山 岳史	寺田 理恵子
川津 義人	小林 康秀	中山 佳則	平成7年卒	平成27年卒
藤井 克彦	高木 英行	昭和59年卒	小林 誠一	井上 悦宏
戸早 哲太郎	深津誠	小峰 昌弘	奥村 佳代子	南澤 宏瑚
中島 慎司	渡辺 寿悦	清水 繁	谷合 哲行	渡貫 由季子
桧森 孝 平林 明夫	奥田 直史 堀木 清二	小嶋 千津美 昭和60年卒	岡田 賢識 平成8年卒	地湧 里奈 平成28年卒
安岡徹	畑小 月一 黒澤 錬二	満田 泰志	土山 人一	十成20年年 山口 健吾
大高由輝	昭和54年卒	古田 光紀	原野 満実子	福田寛之
小谷 寛	小坂 佳則	太島 佐知子	仁平 勉	平成29年卒
小宮 清子	坂本 恵一	村松 岳彦	加藤 太志	松井 樹利亜
坂口 信昭	坂本 信子	本澤 正博	平成9年卒	平成30年卒
増村 正志	小笠原 幸道	高橋 宏和	木田 秀一	岡野 貴洋
山中 操	太田 延幸	石見 勝洋	浮谷 基彦	平成31年卒
昭和49年卒	清水 尚登	昭和61年卒	谷川実	小池 祥子
佐藤 芳明	藤生康彦	小嶋 芳行	林秀憲	令和2年卒
澤口 孝志	目良 昌三	那賀 恵美子	平成10年卒	大森 直樹
小林 正男	鈴木 昌三	萩原 俊紀	真智 絹代 芸井 滋人	教職員
佐藤 憲一 山﨑 純一	久保 俊一 杉山 文敏	小林 義幸 三原 公雄	荒井 滋人 島村 寛人	青山 忠 大月 穣
山崎 純一青木 壮慈朗	杉山 入戦 中村 眞理子	三原 公雄 片桐 正志	馬利 見入 槇田 昇平	カ月 様 西村 克史
久保 隆	服部 洋一	福元 俊之	伊掛 浩輝	梅垣 哲士
小茂田 英男	谷藤 善美	昭和62年卒	平成11年卒	須川 晃資
湯川吉美	谷藤 善美 横森 英俊	根本 俊寛	樋口 孝夫	鈴木 佑典
館徹	昭和55年卒	塚田 雅人	浅野 賢一	仁科 淳良
野澤 美文	小出 真	幾留 孝司	平野 壮哉	青柳 隆夫
元木 英二	黒瀬 健介	清水 恵樹	松田、弘幸	中村 亜紀
山中 光徳	多田 康男	加藤 慎次郎	平成12年卒	松下祥子
飯塚修一	戸塚 宏	半谷 貴宏	伊掛 美里	工藤雅孝
末木 康行	丸山 博秀	昭和63年卒	山崎章	東翔子
坂入 邦晴	森弘通	中道 幹芳 石井 睦子	亀田 博之 平成13年卒	
南 茂樹 昭和50年卒	大野 寿 波岡 宣彦	石开 睦于 歳森 幹生	平成13年卒 怡土 良信	
鈴木 隆	波岡 旦彦 金子 堅司	成株 軒生 三井 宏	活工 及信 藤田 尚之	
小菅 信博	木村 昌広	村山 竜一	平山 参江	
野原 正男	昭和56年卒	中西 剛	平成14年卒	624件
服部 信和	池田 実	森田 孝節	角田 雄亮	= :
大高 清	植松 烈平	吉村 美恵子	吉川 賢治	
汐澤 日出夫	奥田 直史	敷野 修	藤代 昭子	

# 編集後記

大学教員としては、ウェブ会議システムを用いた同時双方向授業や、学生が密にならないように人数制限などを考慮した対面形式での実験、そしてオンデマンド方式による講義動画視聴などを含めた授業など、苦心して、また日々知識や技術を蓄えて日々の大学講義などについて熱意をもって指導にあたっていると思われる。一方で、新入生としては高校生活と環境が変わって新しい生活に慣れるとともに、それら熟練の先生方の熱意を一身に受け止めなければならないため、たまる一方の課題についての苦労話もそろそろ出てくるころではないだろうか。現状でもコロナウイルス感染症による行動の制限はあるものの、船橋校舎にも学生の姿が見られるようになり、このような形で落ち着いていくのだろうかと思う。ただ、なるべくならば感染症に対抗できるような手段を人類として持ちたいものだと思う。

(工化時報編集委員 平成 17 年卒 赤澤 寛行)

# お 知 ら せ

#### 令和 4 年度の行事予定

工化会総会 開催時期・開催方法が決定次第通知する 7/24(日) 一日体験化学教室 8/5(金)、8/6(土) CST オープンキャンパス 2022 10/9(日) 理工学部ホームカミングデー (駿河台校舎)

10/30(日) 船橋キャンパスウオッチング

#### 連絡先

- ・住所変更に関する問合せ→会員(伊掛 TEL:03-3259-0823)
- ・会費に関する問合せ→会計 (清水 TEL:03-3259-0803)
- ・工化時報に関する問合せ→会報(西村 TEL:03-3259-0824, FAX:03-3293-7572, E-mail: jihou-mac-cst@nihon-u.ac.jp)
- ・上記以外の関する問合せ→庶務(栗原 TEL:03-3259-0822)

## 広告募集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。 掲載料 1件:10,000円

#### 発 行 所

東京都千代田区神田駿河台1-8日本大学理工学部工化会会報委員会

西村克史,赤澤寬行,谷川 実,遠山岳史,永島一男,萩原俊紀,米田哲也

学科ホームページ, http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html